

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P2 「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる⑨
地域のチカラで、明日を元気に!

3
No.745

「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ!全県キャンペーン……P6

みんなで作るひょうごの福祉……P7

サイバースペースにバリアはない!

～「アイ・コラボレーション神戸」によるウェブアクセシビリティ普及の取り組み～

まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート……P8

魚食を広め、魚の魅力を伝える 漁業者による地産地消と食育の取り組み
—兵庫県漁業協同組合連合会 SEAT-CLUB—

地域を駆ける!ワーカー物語……P9

親と子が地域の中でより良く生きるための

人の輪・機関の輪を広げていきたい

社会福祉法人あいむ

児童家庭支援センターすみれ 山中 明世さん

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11

3月は
「自殺対策
強化月間」
だよ!



メリケン君&ハーバー
(校区サミットinKOBÉ・ひょうごキャラクター)

「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる⑨ 地域のチカラで、 明日を元気に!

～「第6回全国校区・小地域福祉活動サミットinKOBÉ・ひょうご」より～

「3.11」を境に、私たちが改めて痛感した家族や近隣など地域の絆の大切さ。

これらを一過性のものにせず、「無縁社会」の閉塞感を打ち破る「地域のチカラ」として発信し、相互に学び合うために、「第6回全国校区・小地域福祉活動サミットinKOBÉ・ひょうご」(以下、「校区サミット」)が1月12日に神戸市内で開催され、3,929人が参加した。今号は、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの協賛事業として実施された、このサミットの内容を報告する。



無縁社会から支え合い社会へ
～二つの大震災の教訓を次世代へ～

●あきらめないまちづくり
●地域のチカラで、明日を元気に!

今回の校区サミットは、この二大テーマを掲げて開催された。この言葉には、私たちの社会に大きな影を落とす「孤立化」や「無関心」という問題を打破する道筋を、地域福祉活動から見つけようという意思と願いが込められている。もう一つの願いは、東日本大震災

全国校区・小地域福祉活動サミットって?

「誰もが住みやすい地域をつくろう」と地域福祉活動に取り組む全国各地の住民らが一堂に会する実践交流の場。平成19年に大阪府豊中市で開催されたのを皮切りに、今回が第6回目。豊中市でのサミットで、「私たちは、この校区サミットを機に、全国の小地域福祉活動を大切に思う人たちとの出会いと交流の場づくりを進め、活動の灯火を絶やさず、広げていきます」と宣言されたとおり、賛同する参加者が毎年増え続けています。

を決して風化させず、次の社会の礎として生かすことにある。私たちは、人がひとりでは生きられないこと、人の営みの本質が支え合いであることを改めて痛感させられた。東日本大震災から2年が経過しようとする中、誰もが痛感した支え合いの大切さを、次世代の社会の礎となるよう、実践していくことがこの校区サミットのねらいとなった。ここからは、この二つのテーマに沿って校区サミットで語られ、参加者が学んだ地域福祉活動のヒントをダイジェストで紹介する。



基調講演



地域福祉に携わる人は、
「隠れた稼ぎ頭、です!」

元内閣府参与で反貧困ネットワーク事務局長の湯浅誠さんは、自身の活動、障害者を持つ身内とのエピソードも交え講演。

「地域での活動は、そこに住まう人と地域の豊かさにつながり、経済にも好影響を与える。だから、地域福祉に携わる人は隠れた稼ぎ頭。今後もっと増やさなければならぬ」と地域福祉活動の意義を語った。

また、人々の善意に頼るだけでなく、社会サービスとして基盤を整備することの必要性が確認された。

シンポジウム

神戸市長田区と宝塚市、宮城県名取市の3名の登壇者が、それぞれの震災の体験から、日常、地域において

キーワードは「連携&協働」、
そして「住民みんなの役割・
居場所づくり!」



左から野村勝さん(神戸市)、福住美寿さん(宝塚市)、大脇兵七さん(宮城県名取市)

何ができるかを確認し合った。特に共助を豊かにするためのキーワードとして、「連携・協働」が欠かせないことが報告された。また、復興に向けた取り組みが続く宮城県名取市の応急仮設住宅「箱塚桜団地」の自治会長からは、「孤立者を決して出さない」という目標のもと、住民が参加できるプログラムをできる限りたくさん編み出している経過が語られた。そこに住む全員の役割と居場所づくりに取り組む大切さが共有された。

校区サミット 開催までの道のり

■広がる小地域福祉活動の灯
京都府宇治市で平成23年11月に開催された第5回校区サミットで、次回は神戸市・兵庫県で開催することが正式に発表されました。加えて、第1回校区サミットの実行委員長牧里毎治さんから、「政令指定都市の開催だから4,000人くらい参加者が集まる」とエールのあいさつも。関係者は目を白黒させましたが、今回のサミットは報告者やスタッフを合わせて3,929人が集まりました!

■`全国の縮図、兵庫県の多彩な活動も
実行委員会、企画部会とともに、主催者の神戸市社協と区社協に加え、兵庫県内各地の市町社協が参加しました。「オール兵庫」で企画することで、政令指定都市から中都市、農山村、離島まで、全国の縮図と言われる地域性豊かな兵庫の特色を生かして準備を進めることができました。

- (実行委員会)
神戸市および各区社協、兵庫県内の社協会長やNPO等の32名/計3回開催
- 名誉実行委員長：牧里 毎治(関西学院大学教授)
 - 実行委員長：今井 鎮雄(神戸市社協理事長)
 - 副実行委員長：武田 政義(兵庫県社協会長)
- (企画部会)
神戸市および各区社協、兵庫県内12市町社協職員、NPO等約50名/計10回開催
- 企画部会長：藤井 博志(神戸学院大学教授)



(写真左)当日は神戸市内・外の企業から多数の協賛も(当日資料が入ったバッグは企業「フェリシモ」から提供)
(写真右)スタッフベストの背にはウエルカムメッセージ



分科会は16のテーマに分かれて実践報告が行われた。ここでは、特に参加者が多かった2つの分科会の様子を伝える。

**第3分科会「生☆活！
ここがウチらの居場所！」**

この分科会では、地域での居場所づくりをテーマに、東日本大震災で甚大な被害のあった宮城県南三陸町をはじめ6地域から課題提起と実践報告が行われた。

人と人のつながりが弱まっている今だからこそ、居場所づくりを仲間づくりにつなげるにはどうしたら良いのか。参加者の関心は高く、熱心にメモを取りながら聞き入っていた。報告では、孤立しない関係づくりを目指して訪問やサロン活動を通して

- 居場所の持つ役割**
- 「わたしを発見し開発する場」
 - 「気づきを気づく場」
 - 「つながり続ける場」
 - 「笑いをみんなで共有する場」など



**第10分科会「孤立した生を、
つながりのある生に」**

地域で見守り活動を進める中で、「支援の拒否」や「制度の狭間」の問題が壁になり、どう支えていけばよいのか困る場合も多い。

分科会では、精神疾患や認知症、さまざまな理由から孤立しやすい住民に寄り添ってきた専門職や当事者家族、地域活動者が、それぞれの立場から実践を報告し、議論を行った。人によって孤立していく過程が違うことを前提に、「社会的孤立」をひ

た支援を行う被災地の取り組みが報告された。また、阪神・淡路大震災以降、息長く続いている「ふれあい喫茶」や、自宅を地域に開放した居場所、歌やウォーキングなどの切り口で楽しく安心できる居場所を作っている実践が話された。

居場所は「こうあらねばならない」という決まった形があるわけではなく、ありのままの自分でいられて、そこに笑顔がある。そんな居場所を無数に発見し、つくっていくことの大切さが確認された。

キーワードは「笑いの共有」！
男性パワーも居場所づくりに欠かせません。



サミット終了後は夜景とジャズを楽しみながらの交流会!

サミット旗は次期開催地の三重県へ

とくくりで見るとはなく、まずは一人の人間としてその人の気持ちに寄り添うこと、そして、家族や近隣住民だけで丸抱えするのではなく、専門職や行政がしっかり関わり、支援しなければつながりのある生に至らないことを確認することができた。

16の分科会テーマ

- 育ちあう** 1 「福祉のこころ」学びの原点～家庭・地域～
2 地域に活かそう!おとこの力
- 繋がりあう** 3 生☆活!ここがウチらの居場所!
4 皆で育もう!“共生社会”
- 見守りあう** 5 子どもの見守りからはじまる地域づくり
6 中山間地で暮らしていくために
7 見守りあいからつながりあいへ
- 支えあう** 8 「結」がおりなす 地域の底力
9 とともに「生きる」をともに「つくる」
10 孤立した“生”を、つながりのある“生”に
- 街づくり** 11 NPO法人を活かした小地域福祉活動
12 災害時ひとりの命も見逃さない
13 私のスタートから地域のゴールへ
- 特別企画** 14 きらり☆かがやく☆神戸
15 地域の子育て応援団
16 震災から育む地域のチカラ

★テーマは、「東日本大震災と阪神・淡路大震災以降の復興のまちづくり」や「共生のまちづくり」「地縁組織とNPOの連携」「中山間地の生活支援」「子育て支援」など多岐にわたりました。

**小地域福祉活動をすすめる
13のキーワード**

- その1 あきらめない
- その2 楽しむ!
- その3 できること、身近なことから
- その4 仲間と一緒に進めよう
- その5 カギは居場所づくり
- その6 SOSが言い合える信頼関係づくり
- その7 地域愛!
- その8 人を、地域を、ニーズを知ろう
- その9 育ちあおう
- その10 繋がりあおう
- その11 対等に「お互いさま」で支え合おう
- その12 向こう三軒両隣で見守ろう
- その13 みんなが役割を発揮する主人公

(参加者アンケートより抜粋)

**「地域の役に立ちたいDNA」
どう引き出し合おうか**

校区サミット名誉実行委員長の牧里毎治さん(関西学院大学教授)は、「誰も役に立ちたい、というDNAを持っている。一緒に地域で支え合いたいという気持ちを引き出し合おう」と呼びかけた。

この校区サミットの本質は、住民発の「支え合い」社会づくり運動として大きなうねりにすること。これは、議論が進む社会保障制度改革と別物ではなく、その基盤になるものだ。では、このために私たちにできることは何か。まず、活動者や専門職などが「気づいている」「見てしまった」「孤立の実態を明らかにし、一人でも多くの住民と共有することだ。そして、身近なことから、仲間をつくって支え合いの輪を広げること。深刻な課題を前にするとたじろぎそうなものだが、そこは「できること」から、そして「仲間と楽しみながら」進めるのがポイントである。

今回、校区サミットに参加した人々の大半は、すでに何らかの地域福祉

**第7回 全国校区・小地域福祉活動
サミットはin三重!**

次回の校区サミットは「美し国みえ」です!

月日
平成25年11月28日(木)

会場
三重県総合文化センター
(三重県津市)



活動を担っており、終了後に寄せられたアンケートの言葉は、小地域福祉活動の知恵と工夫の結集である。「誰かが決めてくれる」のを待つのではなく、住民自らが動く、地産地消の地域福祉活動は、各地で進められている。たとえ小さなうねりであっても、あきらめず、継続すること大きな波になっていく。

兵庫県社協では、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進を通じ、今回の校区サミットで得られた知恵や工夫を発信するとともに、県内において同様の趣旨で開催されるフォーラムを支援する予定である。

インターネットは福祉分野でも急速に重要なものになりつつあるけど、高齢者や障害者などによる情報へのアクセスの問題も指摘されているよね。今回は、「サイバースペースにバリアはない!」をスローガンに、当事者の社会参加や経済的自立を目指した取り組みを進めている、NPO法人アイ・コラボレーション神戸を紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

障害者がパソコンを 活用して働く場

「アイ・コラボレーション」グループは、元脊椎損傷者協会滋賀県支部会長の岡本幸助氏により、「障害者がパソコンを活用して働く場」として滋賀県で設立された。その神戸事務所が開設されたのは平成15年5年後には就労継続支援A型の事業所へ移行し、最低賃金以上の給料を支払っている。現在、障害を持つ10人のスタッフが、在宅業務を取り入れながらホームページ制作などに取り組んでいる。

神戸事務所でも現在特に力を入れているのが、ウェブアクセシビリティの普及だ。これは、高齢者や障害者など、誰もがホームページ等で提供される情報を支障なく利用できることを指す考え方で、「音声読み上げに対応しているか」「などの取り組み事項が日本工業規格(JIS)により詳細に規定されている。現在、国や自治体等にはこの規格に基づいたホームページの提供が求められており、そのための診断と改善に向けた支援が事業の

サイバースペースにバリアはない!

～「アイ・コラボレーション神戸」によるウェブアクセシビリティ普及の取り組み～

自らも車いすを利用する理事長代理の板垣宏明さんには、グループの創設者であり法人理事長の岡本さんの言葉が印象に残っている。「あの事務所のスロープの傾斜は急ではないか。なぜ改修を要望しないのか」との指摘に、当事者が社会のバリアに慣れてしまっている状況に気づかさ

当事者発による 使いづらさの改善を

大きな柱となっている。スタッフに加え、外部の視覚障害者団体などの協力も得ながら、当事者としての立場を最大限に生かした事業を展開しているのが特徴だ。

厚生労働省の助成金を受けて開発した「みんなのと〜くん」は、手軽に導入できる音声読み上げソフトとして、評判も上々!



スタッフは常に専門家から情報を得て、楽しみながらITスキルの研さんを積んでいる

れたという。「ホームページも同じで、使いづらさを当り前にせず、当事者自らが積極的に声を上げなければいけない」と力強く語る板垣さん。最近では「神戸ーTフェスティバル」で講演するなど、当事者発、神戸発によるウェブアクセシビリティの普及を目指している。

障害者や高齢者にとって、社会参加の重要な入口となったインターネット。誰にとっても使いやすいホームページの普及に向けて、アイ・コラボレーション神戸の挑戦は続く。

取材を終えて

現在、社協や社会福祉法人の多くがホームページを開発していますが、誰にとっても「見やすく、利用しやすい」ページとなっているでしょうか。まず私たち福祉関係者自らが、率先して検証していく必要性を感じました。

特定非営利活動法人 アイ・コラボレーション神戸
連絡先：神戸市中央区港島9丁目1番地103
☎078-302-9811
<http://www.ickobe.jp/>

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

今後のキャンペーンの展開を協議～推進協議会幹事会を開催～

2月18日、全県キャンペーン推進協議会の幹事会が開催され、今年度の事業進捗状況の報告と平成25年度以降の事業計画について協議が行われました。「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対して、一旦立ち止まって県民みんなで考えていこうという趣旨で始まったこのキャンペーン。広報・啓発活動を中心に、推進団体の輪をさらに広げていくことが確認されました。



出席幹事からは、「バッジなどを作成し、推進団体が常に身に付けるようにして意識付けを行ってはどうか」「次の展開として、色々な課題を持つ人に対する解決方法も意識すべきでは」など、地域で活動する各団体の立場から、キャンペーンに対する提案が出されました。

当日は、新たに協賛金品(5万円以上)をいただいた企業・団体にも列席いただき、感謝楯を贈呈しました!



宍粟市地域福祉のつどいが開催されました!

2月10日、全県キャンペーンの一環として、「宍粟市地域福祉のつどい」が開催されました。当日は「地域のつながりを太くして、ずっと住み続けたいまちへ」をテーマに、市内の福祉委員や高次脳機能障害者家族会のメンバー、病院ボランティアの皆さんによるフォーラムなどが行われました。最後は近隣のささえあい・たすけあいの活動などをアピールする宣言案が採択され、盛会のうちに閉会となりました。今後も各地域において続々と同様の「地域フォーラム」が開催される予定です!



小地域において「福祉でつながる」取り組みの必要性が確認された(左は、宍粟杉で作成されたキャンペーンロゴ入りの「参加賞」)

キャンペーンの推進団体が増えました!

このたび新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体は計196団体(2月12日現在)となりました。参画の申し出は、事務局(兵庫県社協、☎078-242-4633)までご一報ください!

新たに参画した団体(順不同)

(特非)福祉ネット星が丘、(有)健人訪問介護ステーションけんと、(有)ナンバーワン・プランニング訪問介護事業所ナンバーワン・ケア、(特非)マブイ六甲、(特非)ケアット、(特非)輝かすみが丘、全国共済農業協同組合連合会兵庫県本部、(特非)ニューいぶき

協賛について(お礼)

このたび、新たに下記の協賛をいただきました。

社会福祉法人姫路乳児院ピューパホール
……協賛金1万円

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

ある時、児童養護施設の子どもの親と一緒に暮らすことになった時のケースが印象に残っています。当時まだ小学生だったその子の母親は難病を患っており、母子家庭でした。親子での生活を応援したいという気持ちがありながらも、親子と一緒に暮らせなくなった経緯や家事の負担を考えると、今、母親との生活を再開することがその子にとって本当に良いのかどうか不安もあり、慎重にならざるをえませんでした。こども家庭センター(児童相談所)のケース

印象に残るエピソードは？

あなたの原点は？

臨床心理士として病院、学校で勤務した経験が原点です。休職中の方や不登校の子どもやその親などとの関わりを通して、相談援助の指針となるものを培ったように思います。

地域を駆ける！
ワーカー物語

親と子が地域の中でより良く生きるための 人の輪・機関の輪を広げていきたい

ワーカーとも話し合いを重ね、最終的に、ケースワーカーの「この子の母親の命はもう長くないかもしれない。この親子が絆を取り戻せるのは今しかない」との言葉に後押しされ、親子での生活が開始することになりました。

しばらくは、民生委員に見守りをお願いして、時には子どもを施設で預かることもありましたが、数年を経て、親子なりの距離感を見つけたのか、2人で生活していけるようになってきました。良いところも悪いところも含めて親と子が互いに向き合う過程が、親子関係の再構築に大切だと改めて思いました。

顔見知りの輪を広げ、保護者の孤立を防ぐ。(地域の親子対策の「子育てセミナー」の様子)



里親支援を強化したいです。児童養護施設で暮らす子どもの中には、

力を入れたい活動は？

大切にしていることは？

本人はもとより、家族や支援者にも個性があり、一人の人間であることに常に念頭に置いています。本人がより良く地域で生きられるように、また今より少しでも元気に生きられるように、その時々で自身の役割や

実親との交流が少なく家庭をイメージしにくい子もいます。血縁でなくとも、自分の成長を見守ってくれる里親家庭を体験することは、子どもにとってプラスの体験となります。しかし、里親に対する理解や里親の数、里親へのサポートはまだ充実が必要です。今後は、里親同士の交流や相談の場づくり、施設職員や地域住民の理解を促す取り組みを進めたいです。

言葉を考えながら、支援が生きるよう心掛けています。

取材を終えて
親と子を中心に据えた支援を行いながら、親子と地域、施設と地域などをつなぐ「結び目の役割を果たしている山中さん。子どもにとって何が最善なのか、熱いハートで考え、次に必要な結び目を冷静に分析している姿が伝わってきました。

社会福祉法人あいむ
児童家庭支援センターすみれ
やまなか あきよ
山中 明世さん

Personal History

- 26歳 社会福祉法人あいむに児童養護施設職員(非常勤)として就職
- 27歳 児童家庭支援センターすみれ開設。同センター心理士(非常勤)として勤務
※この間、法人での勤務に加えて病院、学校で臨床心理士としても勤務
- 35歳~ 法人での勤務の常勤化に伴い、同センター次長と児童養護施設総務主任を兼務



まちとつながる・住民とつながる！ 企業・NPOの地域づくりレポート

魚食を広め、魚の魅力伝える ―兵庫県漁業協同組合連合会 SEAT・CLUB―

一魚の美味しさを伝える料理教室

「昔は街角に魚屋があり、店先で魚の料理の仕方も教えながら販売していたが、その魚屋もほとんどなくなりました。魚はスーパーでパックに入って売られ、消費者はどう料理して食べたらいいかかわらないまま、魚離れは進むばかり。これでは魚食文化が衰退する…」

兵庫県漁業協同組合連合会では、このような危機感の中で、漁業者側から積極的に兵庫県の魚と漁業をPRして消費者との接点をもたなければと、社会貢献の活動の一環で平成21年に「SEAT・CLUB」を立ち上げた。活動の二本柱は、



SEAT・CLUB「旬の魚お持ち帰り教室」

「地産地消」の取り組みとして地元の魚を使った料理教室と、「食育活動」として小中学生を対象にした出前教室だ。

料理教室では、伝統の味「くぎ煮」など旬の魚の美味しさを伝える教室を

年間300回開催し、古来より継承された技を多くの人に伝えている。退職後の男性も多く参加しており、「魚のさばき方教室」に参加した人で、さらに「さばき養成講座」の課程を修了し、試験に合格した人はSEAT・CLUBの派遣講師になれるという面白い制度もある。講師の中には、近所の人たちを集めて魚料理を教えている人もいて、このような地域活動への広がりがこの取り組みの狙いでもあると広報部の田中次長は話す。

一 出前教室で魚食文化の継承をめざす

また連合会では、毎年、兵庫県学校給食食育支援センター、明石市、姫路市と連携して、県内の小中学校約40校を対象に「さかな講習会(出前教室)」を開催している。「兵庫県の海と魚の話」をしてから生きた魚やタコ、ヒトデ等を子どもたちに触ってもらった後、魚をさばき、調理をして食べる。魚をさばくのも料理するのも初めてという子がほとんどで、中には「気持ち悪い」と退散してしまう子もいるが、みんなが食べて



定番の一品「イワシの生姜煮」

いるのを見ると自分も一緒に食べる。講師は調理の指導を行うだけでなく、「生きた物の命をいただいて人間は生きている。生き物、生産者、調理をしてくれる人に感謝して、食べ物を大切にしましょう」と魚食文化の意味を伝えている。

「県内の小中学校に通っている間に一人が一回は体験できるように、この出前教室をもっと広げていきたい。」「兵庫県出身者はみんな魚をさばける！」となったら嬉しい」と今後の展望を語る田中次長。連合会では、企業とのタイアップにも取り組んでおり、今後はそれらの展開にも期待したい。

兵庫県漁業協同組合連合会 魚食推進室
「SEAT・CLUB(シートクラブ)」
所在地 兵庫県明石市中崎1丁目2-3
兵庫県水産会館内3F
TEL 078-917-4137
http://www.seat-sakana.net

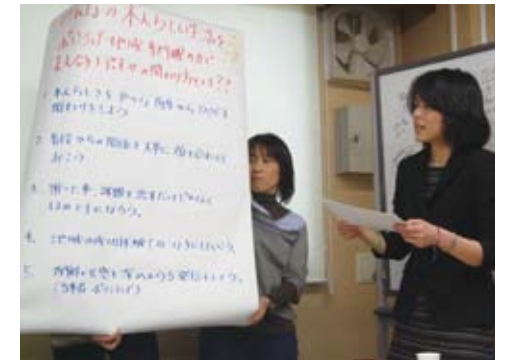
災害を切り口に社協ボランティアセンターの役割を考える

改めて問う
社協ボランティアセンターの値打ち

1月25日から26日にかけて、県内市町村協担当者30名の参加により、ボランティアコーディネーター研修(災害ボランティアコーディネーター・ナーター養成研修)を開催した。
今回の研修は、「災害を切り口に社協ボランティアセンターの役割を考える」をテーマとし、災害時の取り組みから日常の社協ボランティアセンターのあり方を深めることを目的に開催した。



石井さんと熱い思いを語り合う3市の社協ワーカー



「コーディネーターとしての関わり方で気をつけること」を
お題に発表!

合った、社協ボランティアセンターが直面する課題を議論した。「障害者・高齢者の社会参加」「若者のボランティア活動」「ボランティア活動と福祉専門職の協働促進」「住民に身近なボランティアセンター」「過疎地におけるボランティアのあり方」という5つのテーマについて深めた。

問われるボランティア
アクションの力

二日目のプログラムでは、県内3市の社協職員から、「災害を切り口にした社協ボランティアセンターの役割について課題提起が行われた。」
コーディネーターの石井布紀子

社会福祉法人の地域への取り組みを調査
〜地域福祉の拠点として何ができるのか〜

県社協では、社会福祉法人が福祉サービスの提供とともに地域に行っている実践を把握し、公益法人としての今後の方向性を探ることを目的に、「社会福祉法人の取り組みに関する調査」を実施し、このたび県内706法人中358法人の回答を受けて素集計がまとまった。

社会福祉法人にとっては人材と財源の確保、ノウハウ不足などが課題だが社会からの孤立や生活困窮など、制度の狭間にある福祉課題に地域住民と専門機関・団体が力をあわせて取り組むことが特に今求められている。県内の法人が地域福祉の拠点として何ができるのか、今後、経営協とともにヒアリング調査を実施し、具体的な方策の提唱に向けて検討する予定である。

県社協では、社会福祉法人が福祉サービスの提供とともに地域に行っている実践を把握し、公益法人としての今後の方向性を探ることを目的に、「社会福祉法人の取り組みに関する調査」を実施し、このたび県内706法人中358法人の回答を受けて素集計がまとまった。

相談機能・窓口の有無による法人の取り組み傾向の違い

取り組み項目	対応法人数	相談機能・窓口※	
		あり	なし
地域から寄せられたニーズに専門分野にかかわらず対応している	171	59.6%	40.4%
地域住民に対し、虐待相談や緊急通報システムの通報先となるなど、緊急的な対応を行っている	113	86.7%	13.3%
ここ3年で地域からのニーズを把握し、解決策として事業化したことがある	89	77.5%	22.5%
地域住民とともに地域の福祉課題を検討する場に参加している	143	63.6%	36.4%
地域住民(自治会役員、民生委員等)との懇談会の開催等で、地域のニーズを定期的に把握している	105	66.7%	33.3%

※対応法人における相談機能・窓口の有無別の比率である。



みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです



60年の団体の歴史に幕

兵庫県傷痍軍人会

満州事変から続いた長い戦争が終わった時、GHQの指令により、一部重度障害を除いて軍人恩給が停止されました。「食うに食無く、働くに職なし」。筆舌に尽くしがたい苦労の連続であった傷痍軍人やその妻たちは、国家補償を求めて昭和27年11月5日、県下の代表70余名の結集により、兵庫県傷痍軍人会を結成しました。

傷病恩給の復活や戦傷病者等特別援護法の制定などを求め、幾度も夜行列車で上京し、寒風吹きさす12月の国会議事堂前でのハンストや自民党本部での座り込み、デモ行進など、決死の覚悟で運動を展開してきました。



苦しかった戦前戦後を取闘精神で乗り切った

昭和45年には、傷痍の身であっても地域で健康な暮らしを、という積極的な気持ちから、戦傷病者の機能回復や更生に関する事業を兵庫県より受託し、平成17年度まで継続して実施しました。

阪神淡路大震災から10年目となる平成16年には、初めて兵庫県で全国大会を開催しましたが、現在では会員の平均年齢は90歳となり、昨年10月に開催した創立60周年記念式典を最後の大会として、平成24年度をもって悲喜こもごも団体の歴史に幕を閉じることとなりました。

設立当初から兵庫県社会福祉協議会や地域の皆様に支えられ、傷痍軍人とその妻であるという誇りを持ち、心身ともに豊かに暮らすことができましたこと、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

連絡先
兵庫県傷痍軍人会
〒651-0062神戸市中央区坂口通2-1-1
兵庫県福祉センター内
☎078-242-4621 FAX078-242-4626



60周年記念式典の様子

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

お問い合わせ先
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

福祉職場のストレス
対処法を学ぶ

福祉人材センターの紹介等を受けて福祉の仕事に就かれた方などを対象に「メンタルヘルス研修会」(講師:兵庫県こころのケアセンター 臨床心理士・山本沙弥香さん)を2月16日に開催した。
福祉の仕事には特有のストレスが存在することなどにより、離職率の高さにつながっているという課題がある。

今回の研修では、自分らしくいきいきと働くため、自分のストレスを知り、自分でできるストレス対処法などについて理解を深めていただいた。



おしらせ

福祉人材センターでは、福祉の仕事や資格を分かりやすく紹介した「福祉の仕事ガイドブック(改訂版)」を作成しました。お問い合わせは、福祉人材センター(☎078-271-3881)まで!

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

2013年度(第11回)ドコモ市民活動団体への助成

よりよい未来のために頑張る仲間を応援します。
対象団体 国内に拠点を置き、NPO等の法人格を有し、2年以上の実績がある団体など

支援テーマ ①不登校・ひきこもり②児童虐待やDV、性暴力③非行、地域犯罪④子どもの居場所づくり⑤発達障害⑥上記以外で「子どもを守る」視点からの支援活動

助成金額 1件標準50万円(1件上限200万円、総額2,500万円以内)

締切り 平成25年3月29日(金) 必着
 ①② NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド事務局 TEL03-3509-7651
URL <http://www.mcfund.or.jp/>

平成25年度「街なか再生助成金」

中心市街地活性化に資する取り組み等を自発的に行う各種団体等の活動・事業に対し助成します。

対象団体 まちづくりに寄与する活動・運動・事業を行い、街なかにおける市街地整備を推進するための準備組合・勉強会・協議会や、街づくりに関する活動を行う特定非営利活動法人など

助成金額 1件あたり100万円(4~5件程度)
締切り 平成25年3月31日(日)

①② 財団法人区画整理促進機構街なか再生全国支援センター TEL03-3230-8477
URL <http://www.sokusin.or.jp/machinaka/index.html>

日本労働組合総連合会「連合・愛のキャンパ」

災害などの救援・支援活動、環境保全活動、子どもの健全育成活動などへ助成します。

対象事業 ハンディキャップをもった人たちの活動、教育・文化などの子どもの健全育成活動(スポーツを除く)、医療や福祉などの活動、地域コミュニティ活動など

対象団体 中央助成…連合の構成組織の推薦があり、国内外で救援・支援活動に取り組むNPO・NGO団体等の具体的事業プログラム
 地域助成…地方連合会が日常的な活動で連携している、NPO等の団体が行う事業・プログラム

締切り 平成25年3月31日(日)
 ①② 日本労働組合総連合会 連帯活動局 TEL03-5295-0513
URL <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

全労済・地域貢献助成事業

環境と子育て・子育てのための活動を応援します。

対象事業 ①環境分野(地域の自然環境を守る活動、循環型地域社会をつくるための活動、地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動)②子ども分野(子どもたちの豊かな遊びの場をつくる活動、子どもたちが交流し学びあえる場をつくる活動)

対象団体 日本国内を主たる活動の場とする、下記①~③のいずれにも該当する団体:①NPO法人、任意団体等②設立後1年以上の活動実績を有する団体③直近の年間年収が300万円以下の団体

助成額 1件上限30万円(総額2,000万円)
締切り 平成25年4月10日(水)必着
 ① 全労済地域貢献助成事業事務局 TEL03-3299-0161
URL <http://www.zenrosai.coop/>

公益財団法人木口ひょうご地域振興財団平成25年度地域福祉振興助成

市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、やさしく明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的に、地域福祉振興に関わる先駆的・開拓的な事業(A~F)への助成を行います。

申込区分 A「新規事業立上助成」、B「環境整備助成(工事)」、C「環境整備助成(備品)」、D「調査研究助成」、E「講習会講演会助成」、F「車両助成」

対象団体 障害者等を支援する福祉活動団体、ボランティア活動団体

助成金額 A~E:1件上限100万円、F:1件上限300万円※助成対象費用の80%以内
締切り 平成25年4月25日(木)

①② 公益財団法人木口ひょうご地域振興財団 TEL0797-21-5150
URL <http://www.kiguchi.or.jp/>

募集

平成25年度社会貢献者表彰推薦募集

よりよい社会づくりに資することを目的として、社会に貢献されている人を表彰します。

表彰部門 ①人命救助の功績②社会貢献の功績③特定分野の功績④東日本大震災における救難活動の功績

推薦方法 下記ホームページの送信フォームまたは郵送により推薦書を送付

締切り 平成25年4月30日(火)消印有効
 ①② 公益財団法人社会貢献支援財団 TEL03-3502-0910
URL <http://www.fesco.or.jp>

研修・イベント

NHKハートフォーラム「うつ病と向き合う」(大阪)

うつ病を理解し、予防・治療・克服につなげるための正しい情報を紹介するとともに、体験談を聞きます。

日時 平成25年3月16日(土)13:30~16:00
会場 ドーンセンター 7階ホール(大阪市中央区)

内容 ●講演:「今日のうつ病事情」
 講師:工藤 喬(大阪大学准教授)
 ●うつトーク:「うつ病とどう向き合うか」

定員 500人
 ①② NHK厚生文化事業団近畿支局 TEL06-6937-3412
URL <http://www.npwo.or.jp/>

行事予定

- 3月 1日 リスクマネジメント研修
 ◆県福祉センター
 民間社会福祉事業職員退職共済運営委員会◆県福祉センター
- 2日 第2回福祉の就職総合フェア in HYOGO◆神戸サンポーホール
- 6日 コミュニティワーク基礎研修(2日目)
 ◆社会福祉研修所
- 7日 第3回権利擁護部会
 ◆県福祉センター
 第3回地域福祉推進部会
 ◆県福祉センター
- 8日 社会福祉法人理事長研修
 ◆県中央労働センター
- 11日 第3回福祉事業推進部会
 ◆県福祉センター
- 12日 民間社会福祉事業職員退職共済事務説明会◆県福祉センター
- 14日 民間社会福祉事業職員互助会運営委員会◆県福祉センター
- 20日 ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議◆クリスタルホール
- 28日 県社協 第229回理事会
 ◆県福祉センター
 第3回社会福祉政策委員会
 ◆県福祉センター
 県社協 第176回評議員会
 ◆県福祉センター
- 4月 19日 経営協 第225回理事会
 ◆県福祉センター

生命保険の見直し相談

**分かりにくい保険を
 分かりやすく伝える**

生命保険

医療保険

がん保険

学資保険

創業34年の保険代理店
 株式会社 近畿ファミリー

0120-004-888

大阪府茨木市西駅前町 6-36-206

兵庫県の地域福祉情報誌

新規
 購読者
 募集中!

ひょうごの福祉

- 人も地域も元気に!地域の夢とアイデアが詰まった“ご当地福祉”を紹介します!
- 福祉制度を分かりやすく!福祉のさまざまな情報をお伝えします!

毎月発行・年間購読料 1,500円(送料別)

申し込み・問い合わせ 兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633